

— 論文要旨 —

表題	台湾ウチワヤンマとウチワヤンマの関係 北上種は在来種と共存できるのか・都市の生物多様性を高められないか
----	--

学校名	実践学園高等学校		
共同研究	グループ名		
		氏名	分担内容
	代表者		
	共同研究者	*必要に応じて、行を追加し	て記載して下さい。
個人研究	研究者名	國師鷹晶	
	学年	3	

< 要旨 ※400字程度 >

新しい種がそれまで分布していなかった地域に拡大すると、生息環境の近い在来種との間に生息地を巡って種の間で競争が起きる可能性があると言われている。これまで横浜ではウチワヤンマは生息していたが、台湾ウチワヤンマはいなかった。しかし近年、北上してきた台湾ウチワヤンマが侵入してきたため、ウチワヤンマの生息が脅かされるのではないかと懸念された。自分のフィールドである“ニツ池”の生息数についてまとめてみたいと考えた。調査を通してニツ池でも台湾ウチワヤンマの捕獲数がウチワヤンマよりとても多くなってきたのを実感した。競争でウチワヤンマがいなくなってしまうニツ池のトンボ相が変化すると予想したが、北上種は必ずしも在来種の生息地を奪うことはない可能性が高いという結論を得た。ウチワヤンマが絶滅しなかった理由はヤゴの間のすみ分けができたことや餌が豊富であること、羽化時期が少し異なっていたことも原因かもしれない。